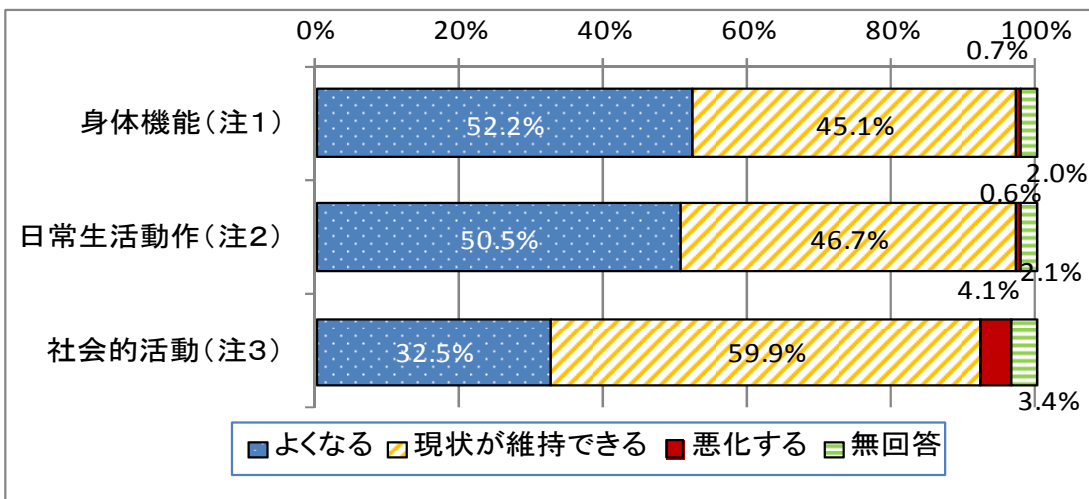


通所リハビリテーションでのリハビリによる変化の見通し

(リハビリによる変化・効果(見通し))

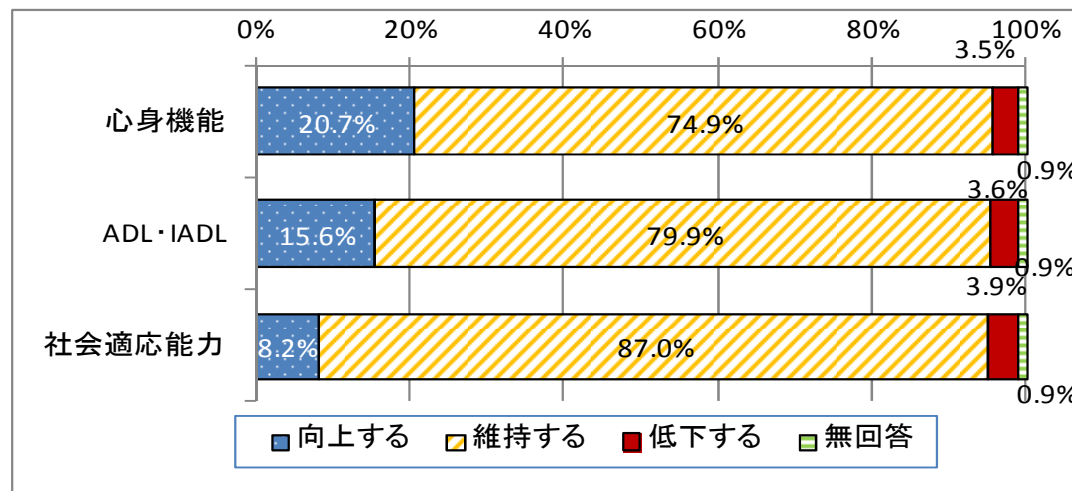
- 本人は、リハビリにより「身体機能」が「よくなる」と思っている割合が52.2%で、「日常生活動作」については50.5%、「社会的活動」は32.5%であった。(図表24)
- リハビリ職員は、リハビリにより「心身機能」が「向上する」と考えている割合が20.7%で、「ADL・IADL」は15.6%、「社会適応能力」は8.2%であった。(図表25)

図表24 本人回答:リハビリによる変化の見通し(n=2,725)



注1) 設問全文は「リハビリを受けることで、あなたの「身体機能(麻痺や関節の動きなど)」はどのようになると考えていますか。
注2) 「リハビリを受けることで、「日常生活を送る上での動作(移動、食事、排泄、入浴、着替えなど)」はどのようになると考えていますか。
注3) 「リハビリを受けることで、「病気やけがになる前に行っていた社会的活動(趣味活動や仕事をするなど)」はどのようになると考えていますか。

図表25 リハビリ職員回答:リハビリによる変化の見通し(n=3,302)

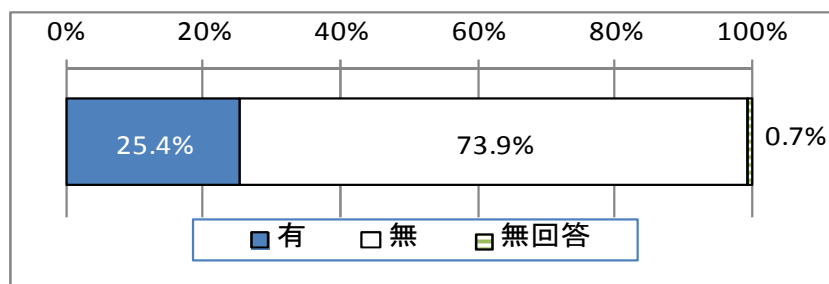


注) 設問文は「あなたからみたリハの実際の効果」

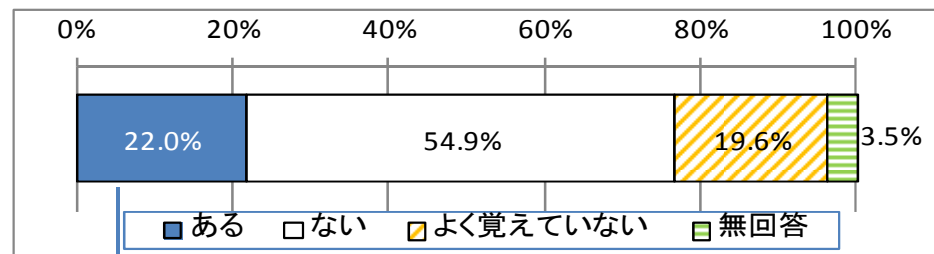
通所リハビリテーション終了後の生活イメージの有無

- リハビリ職員は、利用者の通所リハ終了後の生活イメージ(例:スポーツジムに通う)を「無」(もっていない)が73.9%で、終了後の生活のイメージをあまり持っていなかった。
- 利用者が、地域の体操教室や趣味活動の集まりについて、通所リハの職員やケアマネジャーからの説明を受けたことが「ある」は22.0%で、説明を受けた場合には、利用したいと「思った」が57.0%であった。利用者は、地域の集まりなどの情報提供があれば、利用してみたいと思っていた。

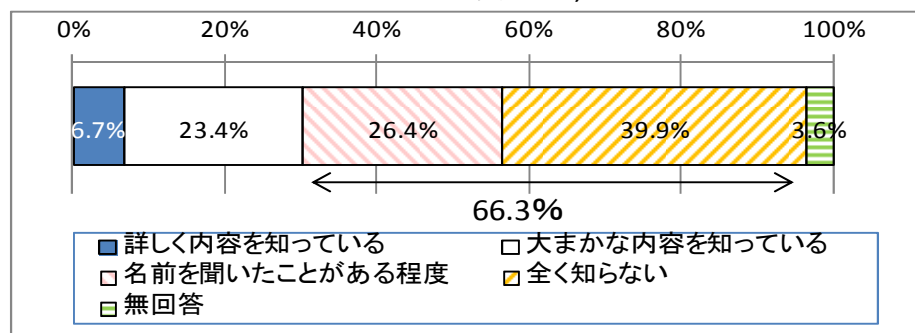
リハビリ職員回答:通所リハ終了後の利用者の生活イメージ(例:スポーツジムに通う)の有無(n=3,302)



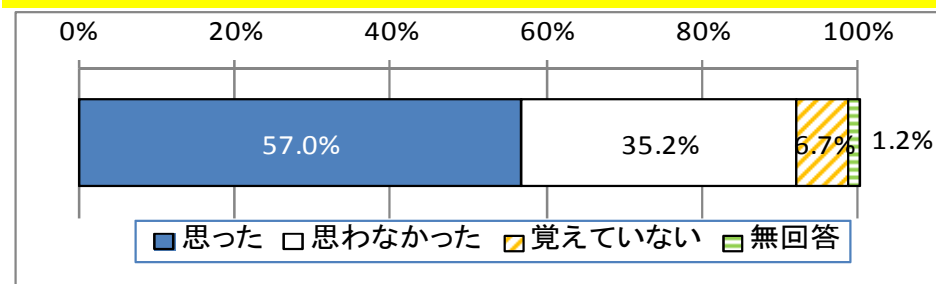
本人回答:通所リハの職員等からの地域の体操教室等の説明(n=2,725)



本人回答:地域の体操教室や趣味活動の集まりの認知度(n=2,725)



本人回答:説明が「ある」場合:利用したいと思ったか(n=600)

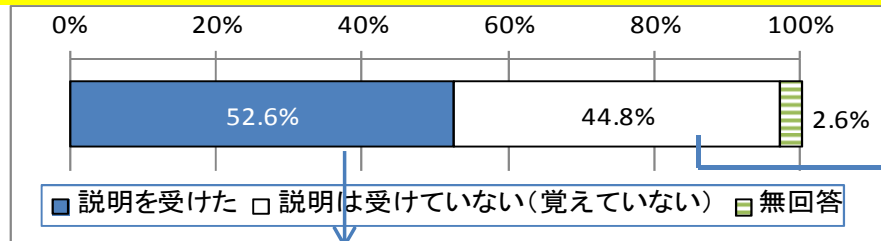


身体機能やADLの今後の見通しについての説明の状況（本人の回答）

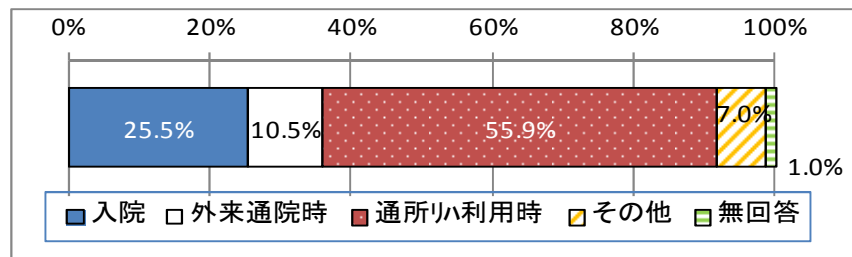
（通所リハビリテーション）

- 身体機能やADLの今後の見通しについて「説明を受けた」が52.6%で、説明時期は「通所リハ利用時」が55.9%、説明者は「リハ職から」が47.2%であった。
- 「説明は受けていない（覚えていない）」場合、説明を「受けたかった」が51.5%と約半数であった。
- 身体機能やADLの今後の見通しについて希望がある場合、「医師から」の説明を希望する者が45.3%であった。

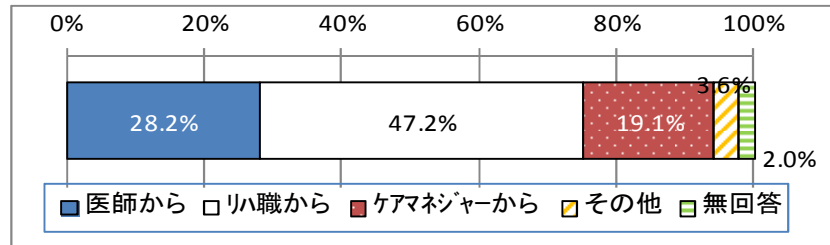
身体機能やADLの今後の見通しの説明の有無(n=2,725)



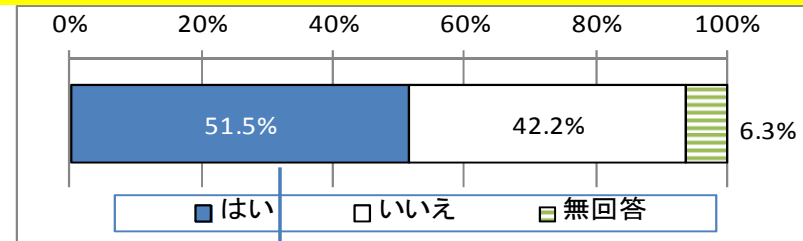
（説明有の場合）説明時期(n=1,433)



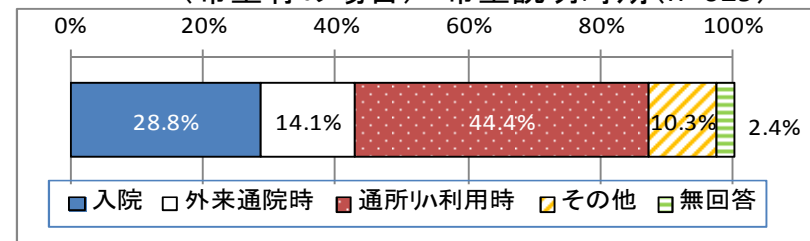
（説明有の場合）説明者(n=1,433)



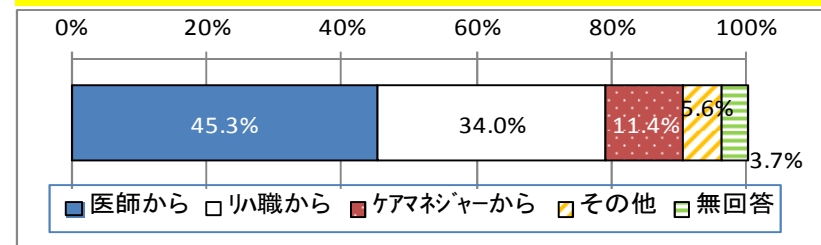
（説明無の場合）説明を受けたかったか(n=1,222)



（希望有の場合）希望説明時期(n=629)



（希望有の場合）希望説明者(n=629)



通所リハビリテーションと通所介護の比較：平均利用期間

○ 通所リハビリテーション、通所介護ともに、平均利用期間が4年程度であった。

		通所リハビリテーション	通所介護
利用者属性	平均年齢	80.1歳	84.1歳
	認知症の有病率	23.2%	38.3%
	平均要介護度	2.3	2.3
	平均利用期間	49.6ヶ月	48.0ヶ月
サービス提供時間	6時間～8時間	85.0%	89.3%
個別リハビリ等の提供	個別リハビリ・個別機能訓練実施率	76.0%	61.7%
	PT・OT・STが実施した 個別リハビリ(個別機能訓練)の割合	96.1%	12.3%
	1人当たり平均個別リハビリ(個別機能訓練)時間	16.6分	22.4分

参考：平成23年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「介護サービスの質の評価に関する利用実態等を踏まえた介護報酬モデルに関する調査研究事業」

訪問看護ステーションにおけるリハビリテーションと訪問リハビリテーションの比較

○ 訪問看護ステーションにおけるリハビリテーションと訪問リハビリテーションの比較では、年齢、性別、利用者の疾患、訪問頻度、要介護度、プログラム内容など似かよった内容であった。

利用者像	訪問リハビリテーション事業所 (n=1694)	訪問看護ステーションのリハビリ テーション(n=1614)
年齢	77.4歳	76.6歳
性別	男45.6% 女54.4%	男45.8% 女54.2%
主治医の同一法人内割合	42.1%	15.4%
ケアマネジャー同一法人内割合	27.6%	25.1%
利用者の疾患	脳血管疾患(軽中度)31.8% 運動器疾患(軽中度)26.6% 脳血管疾患(重度) 14.7%	脳血管疾患(軽中度)33.7% 運動器疾患(軽中度)21.3% 脳血管疾患(重度) 15.9%
訪問サービス頻度	1.6回	1.5回
一回あたりの提供時間	41.1分	52.3分
要介護度	要支援 8.3% 要介護1～3 55.6% 要介護4～5 34.7%	要支援 6.9% 要介護1～3 55.8% 要介護4～5 35.3%
プログラム内容	ROM訓練 79.2% 筋力増強訓練 76.6% 歩行訓練 67.8%	ROM訓練 81.8% 筋力増強訓練 78.6% 歩行訓練 68.9%